

熊本・徳永直の会会報

第46号

徳永直「孟宗忌」展

1月7日(火) ～ 2月27日(日)

△文学講座・朗読会Vのお知らせ

日時 2月15日(土)
午後1時30分～午後3時

会場 熊本近代文学館 正面ロビー

内容 中村 青史氏 (元熊本大学教育学部教授)
「上熊本駅と徳永直」
熊本朗読研究会 (矢部 絹子氏他)
徳永 直作「風」

(昭和16年4月『日本評論』発表)の朗読

第二十六回 孟宗忌案内

今年の第二十六回孟宗忌は、二月十五日(土)熊本近代文学館と共催でやることになった。新しい展開である。上記のように孟宗忌行事は、熊本近代文学館ロビーで行なう。例年の碑前祭は、例年通り徳永直文学碑前で挙行する。従って午前と午後と場所が離れているので、ご注意ください。

碑前祭 二月十五日(土)

午前十一時より十一時半まで
徳永直文学碑前(献酒、献花、メッセージ紹介、一年間の活動報告等)

碑前祭終了後直ちに移動。バス利用、水道町乗替え、水前寺公園下車。食堂は市体育館内にあり。朗読終了後別室でテレビ(徳永直紹介)を見て徳永直についての雑談会を計画している。偲ぶ会は、電車通りの十徳屋で午後五時から、会費五千元。

会員の皆様お健やかに新しい年をお越しのことと存じ上げます。孟宗忌も今回で二十六回を迎えることが出来慶ばしい限りでございます。これも偏に皆様方の支えが有りましてのことと感謝致しております。ご承知のとおりこの会は皆様の会費により支えられ運営がなされております。今年度より特別会員制の導入でこの一年過ぎることが出来ました。今度共会員の皆様の力強いご協力を心より願っております。

会計 寺澤 孝子

徳永直に惹かれる

鍛冶 さだむ

私は徳永直の作品の多くを読んでいくわけではない。それでいて彼に強く惹かれるのはなぜだろう。もう一つしつくりしないものがあつた。

思いあたることが幾つかある。とくに「馬」や「最初の記憶」などに私はつよく心を揺すられ、「太陽のない街」の労働者のストライキに胸をおどらされる。戦前の農村で貧農として育ち、かつ印刷工の経験もある私にとつて徳永は先輩格にあたる。それが惹かれる理由だろうか。それもある。しかし、どうもそれだけではなさそうに思っていた。

彼は名作「太陽のない街」で日本の代表的プロレタリア作家になつたが、日本が侵略戦争を開始し、治安維持法による弾圧が激しくなつたころ、その「太陽のない街」の絶版を自ら宣言し「転向」した。その点では小林多喜二や宮本百合子ら非転向の作家の生涯と考えあわせると、徳永の弱点として批判のあるのもやむを得ないだろう。が、それにもかかわらず私の徳永に惹かれる気持ちに変わりはない。

徳永直の読書会に参加して彼が「転向」後も、また戦後の紆余曲折のなかでも一貫して労働者を愛し、彼らに肩をよせてともに歩んだことを知つた。彼の全作品を貫くテーマはまさにここにあつたようだ。私が徳永直に惹かれるのはどうもそこにあるようである。

私と徳永直との出会い

熊谷 和信

徳永直の戦後の作品「妻よねむれ」は、昭和二十二年単行本として刊行された。冒頭は次のような書き出しで始まっている。

「トシヲ、いまおれたち親子はお前の故郷に疎開してきている。宮城県T郡T町字H部落、ここは山の中だがやはりT町の一部で、お前の生れ育つたT町から一里も離れているが、裏の山にのぼると、かつては仙台侯の支藩で、明治の初期までは米穀の集散地として賑をきわめていた……」

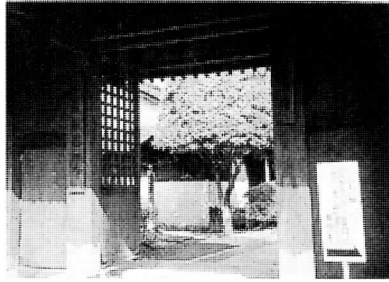
宮城県T郡T町とは、同県登米郡登米町を指す。徳永は妻トシヲを亡くし、昭和二十年七月十日東京から娘二人と共に、この地に疎開して来たのだ。徳永は同年十一月末まで住んだとされている。私は、このことを元熊大教授の中村青史先生から聞いた。私は、その町の隣町で生まれ育つたものである。

十数年前帰郷した折に、徳永が間借りした家を訪ねた。また、徳永と親しい仲にあつた首藤直一郎さんともお会いし、いろいろ徳永についてお話を窺つた。妻トシヲの父のこと、祖父は明治の建築家として、極めて気質な棟梁であつたこと等。

高校を卒業するまで当地で育つた私は、全く知らずにいた。熊本に住んで十年後位に、中村先生との出会いの中で知つた事実である。以来、徳永直が身近な存在として親しみが湧き、少しずつ作品に触れている私である。

新・徳永直文学散歩

十四年前一九八九年六月十一日(日)に第一回徳永直文学散歩を実施している。RKKテレビも取材にきた。今回また文学散歩の声が出て、二〇〇二年十一月十六日(土)に実施した。前のがあるから「新」である。以下福島明子さんの記録と写真で、新文学散歩の報告としたい。



小泉八雲ゆかりの

東岸寺跡地蔵堂

(地蔵堂前が小泉八雲が明治二五年〜二七年まで住んでいた旧居跡)



二〇〇二年十一月十六日(土)
14:30 さろんど漱雲前出発

総勢9名

国道3号線を渡り右側

報恩寺(山頭火が得度した寺)

・仁王さん通りを横ぎり

坪井一丁目公園を右折

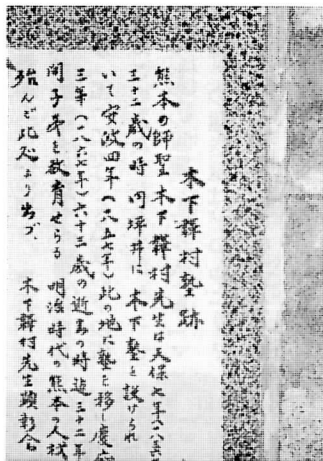
・中坂を登る

浄土宗専念寺

(女性史研究家高群逸枝が大正元年より寄宿していた寺)



・木下樺村塾跡



(熊本の師聖、天保七年〜慶応三年まで三二年間。明治時代の熊本の人材は此処より出づ、といわれる位子弟を教育する。この場所は安政四年〜慶応三年までの十年間)

2002年度 決算書

2002年 1月～12月(単位:円)

収入		支出	
会費納入 67	201,000	事務所家賃 15,000×12ヶ月	180,000
(一般年会費 3,000)		会報発行 No.44. 45	48,300
" 10	100,000	孟宗忌 2002年 2月11日	20,064
(特別年会費 10,000)		通信費(電話)	52,237
寄附 6	32,000	" 切手ハガキ、他	19,720
前年度繰越	1,348	雑費(消耗品他)	4,812
		小計	325,133
		次年度繰越	9,215
合計	334,348	合計	334,348

平成15年1月20日

上記に相違ありません。 会計監査

西田光子 

会費納入者(平成十四年一月～十二月)
特別会員

井上 栄次 岩本 税 上野美恵子 上妻 四郎 金野 文彦
 杉野 健一 高光 協三 中村 青史 丸山 幸子 国米 真市
 一般会員

天草 操 池田 義一 泉 滋 今村 光江 上野 桂子
 植村 勝明 浦田 義和 大我 孝 大友 清子 大橋三千代
 大野 正美 岡崎 信五 緒方 明子 緒方 直臣 小川 裕子
 海津 広子 梶原 定義 菊川 有臣 吉良 初 久保田義夫
 熊懷 友春 鍛田 吉豊 木庭 克敏 小崎 太一 坂本美津子
 沢田 博行 島寄 信子 平 晋一郎 高光 睦子 高田 隆子
 千葉 昌秋 柘植 周子 寺岡 葵 寺沢 孝子 中田 幸作
 永田日出男 中野紀美子 西川 悦子 西田 光子 西原 憲児
 原 秀子 原田 三郎 平野 正憲 福島 明子 西木 憲明
 益子 薫 松本 修 光岡 達之 御村 春子 宮崎 啓子
 宮崎 静夫 三吉 輝史 森上 是子 弥上 是子 矢澤 吉邦
 山戸かずえ 吉岡 恭子 吉田 精一 吉永 惟昭 渡辺 布威
 渡辺 秀利 久保 整子 米原 尋子 平岡加久子 熊谷 和信

事務局だより

▽会費が百人分集まらないと、会報年一回発行は無理のようである。
 ▽読書会通信を年四回ぐらい出せたらいいと思っっている。ただしこ
 れは全会員に郵送するには経済的に無理だから、手渡しになり範囲
 がせまくなる。
 ▽画廊南風堂のホームページに熊本・徳永直の会(孟宗忌)がは
 いています。ご利用下さい。

熊本・徳永直の会 熊本市北千反畑町五―一三 さろん・ど・漱雲
 〒八六〇―〇八五五 TEL・FAX〇九六―三四三―〇〇七二
 郵便振替 〇一九四〇―二―一―四九八